

第1回 恵庭創生懇談会

(第1回)

議題：(1)人口ビジョンについて(2)総合戦略について(3)恵庭市総合戦略個別事業(素案)について

日時： 平成27年6月1日 14:00～16:00	場所： 恵庭市役所2階 202会議室
出席者： 北海道大学公共政策大学院特任教授	小磯 修二
北方型ECO推進協議会 (株)キクザワ 代表取締役	菊澤 里志
恵庭工業クラブ サッポロビール(株)北海道工場 副工場長	増淵 隆昭
北海道文教大学 こども発達学科 講師	井上 大樹
学校法人産業技術学園 事務局長	切明 毅
北洋銀行恵庭中央支店長	小松 節男
北海道銀行恵庭支店長	小山 裕之
恵庭市政記者クラブ 千歳民報社 代表	大澤 雅松
連合北海道恵庭地区連合 執行委員	田中 義範
千歳公共職業安定所 所長	曾根 文儀
北海道石狩振興局地域政策部戦略策定支援担当部長	田辺 きよみ

作成部署： 企画・広報課 総合戦略担当

作成者： 中山 真

議事録内容(1/13)

	会議次第
	1. 開催あいさつ
	2. 副市長あいさつ
	3. 恵庭創生懇談会構成員あいさつ
	4. 恵庭創生懇談会について
	5. 座長選任
	6. 議事
	(1)人口ビジョンについて
	(2)総合戦略について
	(3)恵庭市総合戦略個別事業(素案)について
司会 (林企画振興部次長)	<p>それではお時間となりましたので、本日はお忙しい中ご出席いただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>まずご覧になっておわかりのとおり、ただ今庁舎の耐震工事中でありまして、適当な会議室を都合つけることができません、このような狭い部屋での会議となりますことをまずもってお詫び申し上げます。</p> <p>それではただ今から第1回恵庭創生懇談会をはじめさせていただきます。</p> <p>私は司会を務めさせていただきます企画振興部次長の林と申します。どうぞ宜しくお願いいたします。</p> <p>それでは懇談会開催にあたりまして北越副市長より一言ご挨拶申し上げます。</p>
北越副市長	<p>第1回目の恵庭創生懇談会開催にあたりまして、本来であれば市長が出席してご挨拶申し上げるところでございますが、あいにく本日札幌に公務で出かけておりまして、私が変わりまして一言お礼も兼ねましてご挨拶させていただきます。</p> <p>本当に皆様にはお忙しい方ばかりでございますけれども、この恵庭創生懇談会の委員をお引き受けいただきまして誠にありがとうございます。そしてまた本日お集まりいただき、本当にありがたいと思います。</p> <p>さてご存知のとおり国はまち・ひと・しごと創生総合戦略、これを推進するにあたりまして地方に対し、地方版総合戦略の策定を要請し、産業界、行政機関、大学、金融機関、労働団体あるいは報道関係で構成される組織で審議するなど、関係者の意見を広く反映させることが重要であると、このようにされています。たまたま恵庭市におきましては、平成26年1月にまちづくり基本条例が施行され、まさにまちづくりに関わる全ての人がそれぞれ対等な立場で協力しともに考えとも行動するというところでスタート</p>

議事録内容(2/13)

北越副市長(続き)	<p>したわけでございます。まさにまちづくり基本条例の精神に則ったものが今日のこの会合であろうかと思えます。</p> <p>皆様からご意見、ご提言をいただくことによりまして、恵庭市のまちづくりをより一層力強いものとして進めていきたいと。また時期を同じくして、またこれもたまたま何ですが、28年度から始まる恵庭市の総合計画、10カ年の計画がスタートするところでございまして、現在のその策定作業を進めております。そのため総合戦略との整合性も一方では確保する必要がありますので、そうした視点からもご助言をいただければ幸いです。それぞれの皆様には、本当にご多忙かと存じますけれども、総合戦略の策定において、恵庭市の魅力をさらに引き出すにはどうすれば良いのかなど、それぞれのお立場からご意見、ご提言をいただきたいと思えます。それではあらためて宜しく願い申し上げます、開会のご挨拶といたします。どうぞ宜しくお願いいたします。</p>
司会	<p>それでは続きまして、事務局よりそれぞれ自己紹介させていただきたいと思えます。</p> <p>(事務局挨拶)</p>
司会	<p>続きまして、恵庭創生懇談会にそれぞれの分野でまちづくりに貢献いただいていらっしゃる皆様方にお越しいただいております。お手元に名簿も配布してございますが、それぞれ委員の皆様方より自己紹介をお願いいたします。</p> <p>(各委員自己紹介)</p>
司会	<p>ありがとうございます。続きまして、次第の4番目に入ります。本恵庭創生懇談会について事務局より説明いたします。</p>
事務局	<p>昨年12月27日に政府より市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定について通知があり、その策定においては「産業界、行政機関等広く関係者の意見が反映されることが重要である」ことから、いわゆる産官学金労言で構成する推進組織が必要ではないかということでこのように皆様にお集まりいただいたわけでございます。小磯先生をはじめ、大変お忙しい方に集まっていただきまして、感謝する限りでありまして、おそらく恵庭市が主催する会議でこれだけ幅広い職域の皆様にお集まりいただいた会議は過去なかったのかなと思えます。今日事前に皆様に提示してあります資料、これは職員全員から各所管業務の枠を超えて地方創生にふさわしいという事業を募集したものでありまして、提出されたものそのまま記載しています。現在我々担当部と調整中でございます。新規事業を中心に、継続事業、先ごろ政府から示されました先行型ということで平成26年度補正によって行われている事業等を盛り込んでおります。現時点での全ての事業という状況です。今後、今日のこの懇談会を経まして、また各担当と調整をして実効性のある、効果のある事業を作成していきたいという風に考えてございます。皆様からこれはおかしいですとか、こういう新しい提案がいいですとか、これはここ部分の部分が欠落していますとか、厳しいご意見をいただいて、それを今後の参考にさせていただきたいと考えてございます。今後、今日を含めて懇談会としては3回程度開催を予定してございますので、宜しくお願いいたします。</p>
司会	<p>続きまして、次第の5番目、座長の選出になりますが、恵庭創生懇談会要領第5条に定めましており構成員の皆様方の互選により座長を置くということになってございます。そこで、非常に僭越ではございますが、事務局案がございまして、そちらの案を構成員の皆様におはかりさせていただいてもよろしいでしょうか。</p> <p>(いいですの声あり)</p>
司会	<p>ありがとうございます。それでは、座長を小磯修二北大特任教授にお願いしたいと思います。皆様よろしいでしょうか。よろしければ拍手でご承認いただければと思います。</p> <p>(拍手)</p>
司会	<p>ありがとうございます。小磯先生よろしいでしょうか。よろしくお願い申し上げます。</p> <p>続いて副座長ですが、同じく事務局案をおはかりするということでよろしいでしょうか。</p> <p>(いいですの声あり)</p>

議事録内容(3/13)

司会	ありがとうございます。それでは、北海道石狩振興局田辺総合戦略策定支援担当部長にお願いしたいと思いますが、皆様よろしいでしょうか。よろしければ拍手をもってご承認願います。
	(拍手)
司会	ありがとうございます。それでは、これより審議を小磯座長にお願いしたいと思います。
	小磯座長宜しくお願いたします。
座長	<p>それではあらためまして座長を仰せつかりましたので、皆様方のご協力を得て、議事の進行を務めて参りたいと思いますので、宜しくお願いたします。今のこの地方創生の動きですけれども、私自身も北海道で人口減少問題の検討から関わって、今道内各地での地方創生の色々な動きに対して、お手伝いをさせていただいております、もう既にこのような会合を経験させていただいております。あらためてその時に問われているのが、基本的なところでこの地方創生の政策って一体何なのかということ。もともと人口減少という流れの中で、日本創生会議がこのままでは消滅の可能性があるという警鐘を鳴らし、これを受け止めて、もう既に北海道は人口減少になって18年目ということで長い期間が経っているのですが、この機会にあらためて真正面から真剣に受け止めていく議論が今提起されている。それを政府が一つの地域の活性化という政策とあわせて提起している、そういう流れだというわけでありまして。とはいっても、政府が示している今の地方創生の流れっていうのはかなりスピードのある、この検討会議もそうですが、今年度中のビジョン・総合戦略の策定、それも早めに10月中に、と。各地域においてやや正直強引な流れをどう受け止めていくのか、かなりとまどいもあるというのが実感だと思います。しかもそれに向けての交付金の具体的な姿っていうのが、なかなか見えて来ないでいる。そういう中で、今どういう立ち位置で検討を進めていけばいいのか、というのはこれまでにない政策で、なかなか難しい。といってもですね、避けるわけにもいかないですし、折角のこういう機会に何を恵庭という地域の立場で議論していけばいいのか。その向かい方というのは各地域違うと思います。私見ますと、恵庭の場合は総合計画というものをかなり丁寧に、先ほど副市長さんの紹介にもありましたがまちづくり基本条例という市民参加の形の中で積み上げていくというそういう流れの中に今回地方創生の動きがあるわけですから、いい意味で連携させながら国の示す地方創生にいかに向き合うことがこの地域にとって有効なのか、そういういい意味したたかな戦略的な視点を持った議論を進めていくということが大切なんじゃないかなという風に考えています。そんな思いでこの懇談会と一緒に進めて参りたいと考えておりますので、皆さん一つご協力のほどよろしくお願いたします。</p>
副座長	小磯先生のもと皆様のご意見をいただきながら何か一つでもですね、この恵庭市らしさというものをこの中に散りばめていけるようなお助けができればいいなと思います。宜しくお願いたします。
	【(1)人口ビジョンについて】
座長	<p>それではこれより私のほうで議事進行を進めさせていただきます。</p> <p>早速議事次第に沿って進めていきましょう。議事のはじめ、(1)人口ビジョンについての説明を事務局よりお願いたします。</p>
事務局	<p>それでは、私のほうから人口ビジョンについて説明致します。</p> <p>人口ビジョンについて、と白抜きしている資料の1ページ下段をご覧ください。</p> <p>地方人口ビジョンは、各地方公共団体における人口の現状を分析し、人口に関する地域住民の認識を共有し、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を提示するものとされており、まち・ひと・しごと創生の実現に向けて効果的な施策を企画立案する上で重要な基礎と位置付け、総合戦略を策定する必要があります。</p> <p>また、地方人口ビジョンの対象期間であります、国の長期ビジョンの期間である2060年を基本とされています。</p> <p>これを受けて恵庭市では、人口ビジョンの策定を進めています。資料の3ページをご覧ください。</p> <p>まだまだ様々な統計データの集計途中ではありますが、(1)において人口の推移、社会保障・人口問題研究所による推計、(2)で年齢別人口を掲載しております。(3)においてはこれまでの社会動態、人口動態を、(4)においては年齢別社会動態を掲載しております。資料の4ページをご覧ください。(5)で年齢別純移動先、(6)出生数と合計特殊出生率の推移、(7)市内大学・専門学校生の市内への就職割合、恵庭市の産業別就業特化係数を示しております。</p> <p>詳細な分析は載せてございませんが、例えば(7)の市内大学・専門学校生の就職割合などは5%前後となっております、若者が定着していないことがうかがえます。産業別特化係数では、千歳市ほどではありませんが、公務の割合が高く、自衛隊の影響によるところが大きいと推察されます。今後こうした分析を進め、7月中を目途として恵庭市人口ビジョンの策定を行って参ります。大変雑駁ではありますが、人口ビジョンについては以上となります。</p>

議事録内容(4/13)

座長	<p>ありがとうございました。それでは続いて説明を受けましょうか。</p> <p>【(2)総合戦略について】</p> <p>(2)総合戦略について事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>総合戦略について説明致します。</p> <p>政府は、日本の人口の現状と将来の姿を示し、今後目指すべき将来の方向を提示する「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン(国の長期ビジョン)」及びこれを実現するため、今後5か年の目標や施策の基本的な方向、具体的な施策を提示する「まち・ひと・しごと創生総合戦略(国の総合戦略)」をとりまとめ、閣議決定しました。</p> <p>総合戦略について、と白抜きしている資料の1ページ下段をご覧ください。国においては、人口減少問題の克服と成長力の確保を目的として、①地方における安定した雇用を創出する②地方への新しいひとの流れをつくる③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる④時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する、の4本の基本目標を掲げています。資料2ページをご覧ください。上段部分に掲載しておりますが、恵庭市では昨年度から総合計画という市の大元の計画策定を進めており、様々な市民意見をいただけてきました。点線より下の部分で、これら市民意見から市が重点的に取り組む方向としまして、「人がつながり人口減少に負けない魅力あるまちづくり」、「安全安心に住み続けたいまちづくり」、「希望を持って子育てしたくなるまちづくり」、「恵庭らしさを活かした魅力あるまちづくり」を設定しています。資料3ページをご覧ください。</p> <p>平成26年度に国より6,350万円程度の交付金の交付がありました。市では、先ほど申し上げた4つの重点的に取り組む方針に沿った事業選定を行い、地方創生先行型事業として、今年度実施している事業を中段に載せています。</p> <p>最後に資料4ページをご覧ください。総合戦略の策定スケジュールを掲載しております。これまで、市内部での職員提案や、総合計画審議会委員の提案などがあり、その提案を受け市役所内部調整会議を実施しました。本日開催しています恵庭創生懇談会は上から3番目のところございまして、個別事業提案に対し、それぞれのお立場からご意見、ご提案、あるいは新規事業提案をいただければと考えています。なお、本日いただいた意見をもとに事務局で事業案を集約し、成案化に近づけて参りたいと考えてございます。そして、最終的には9月頃には総合戦略案として10月上旬には国へ計画として提出したいと考えています。といいますが、早期に計画を提出すれば、国からの交付金が増額されるかもしれないといったことがあるからです。皆様には短期間で案の作成となりますが、お力をお貸しいただいて、より良い計画としていきたいと思っております。以上です。</p>
座長	<p>ありがとうございます。人口ビジョン、総合戦略ということで国が示した地方創生に向けての考え方、それを受け止めて恵庭市としてどういう取り組みスケジュール、方向でやっていくのか、というところの基本的な流れ、内容についてご説明をいただきました。今日の進め方ですけれども、第1回目ということもありますので、委員の皆様方からそれぞれ今後の恵庭の創生に向けてのお考えについては、後ほどそれぞれお一人ずつ伺いたいと思います。</p> <p>その前段で今説明のあった内容についての質問ですね、ここはちょっとよくわからないけれどもということ、理解を深めていくために、もしご質問がありましたらお受けいたします。いかがでしょうか。</p>
A委員	<p>もし今わかりであれば教えていただきたいのですが、人口ビジョンの4ページのところで、市内大学専門学校学生の就職状況をお示しいただいているのですが、恵庭市に高校まで住んでいる子どもたちが、その後どれくらい恵庭に住み続けているか、就労しているか教えていただければと思います。大学はいろいろな種類ありますので、子どもたちがどれくらい残っているのか、教えていただければと思います。</p>
座長	<p>さていかがでしょうか。</p>
事務局	<p>今回お示したのは、市内の大学、専門学校ですので、例えば市内に住んでいて札幌の大学に通っているお子さんがその後どこに就職したのかについては調べきれっていません。ただ、同じページの中、(5)を見ていただきますと、年齢別純移動数の状況ということで、20歳から24歳がやはり150人から200人転出のほうが多い、と。その状況を考えれば、おそらく年間100人程度恵庭から流出していていることが推察されます。</p>
座長	<p>はい。大事な論点の質問ですので、もしまた詳細な情報がわかれば、恵庭の場合難しいのが、恵庭に住民票を置いて、札幌の大学、高等教育機関に通うという二つの類型があるということですね。そこはデータとしてどこまで調査、精査できるのか、なかなかこれまでのデータからは難しいところもあるのかな、と。国もビッグデータの提供とも言っていますので、この機会にまたその辺をうまく活用していければ。</p>

議事録内容(5/13)

事務局	今、高校生の方のお話があったのですが、市内には大学、専門学校ございます。 国勢調査は10月1日現在住まわれている方の人口動態で、一方住民基本台帳上の人口というのもあります。 実は、大学専門学校に通われている方というのは、実態は住まわれているのですが、住民票は移していないというのが非常に多い。 その乖離の部分は以前から気にはなっていたのですが、その乖離のためになお詳細の調査は難しいのかなと思います。
座長	あとございますか。なければ、私のほうから確認ですが、総合戦略についての2ページ目。これから議論を進めていく大きな4つの柱。 一応国が示した基本的な枠組みの柱があり、それを受け止めて整理されたと思うのですが、 やはり恵庭市として、これからの地方創生はこの4つの柱なんだと、これからの議論の基本となるものですから、 それを示された考え方とか、その辺のところを折角なので皆さん方にご説明いただけませんか。
事務局	大変難しいのですが、先ほどお話しした総合計画をたまたま策定しているものですから、昨年度平成26年度市民の広場ですとか、 業種別皆様の集まりですとかワークショップ等を行いまして、その中でやはり地方創生の話をしまして、これから10年間の 総合計画を作るにおいて、どういった部分が重要ですか、色々な指標を示して皆様から意見聴取をしたところです。 ですから先ほどの人口ビジョンの資料とこれに近いもの、様々統計データ、例えば観光人口が伸びたり、逆に農業者が減っている、 そうしたものを示したうえで、そういう市民の皆様から次はどういうことが重要か、色々聴いたうえで、その根底にある意識を 探ったところ、この4つに集約されるであろうというところで、例えば人口減少に負けないという部分、国のほうも実は 2060年に1億人程度の人口を確保すると、人口は減る前提で考えているわけですから、人口が減っていても この国、このまちをどう成り立たせていくか、そういうところが一つの視点かなと思います。としたところで、この4つに分類された項目は 皆様の意識から取り上げたところです。当然この中に入っています取り組みの方向性の中に、具体的に考えられる例というのが 載っています。これが実際出てきたものを我々分類したわけですし、今回特に大きかったものは、 コミュニティという言葉、つながりという言葉が特に多かったです。10年前とはやはり傾向が違うところかなと思います。 それからやはり女性の皆さんと高齢者に対する色々な施策、これから人口構成比がだいぶ変わりますから、 これらが特徴ということから、これら4つを主に重点的に取り組むべき具体的な方向性として考えたところです。
座長	ありがとうございました。まさに総合計画での市民の方々の意見交換の積み重ねの中からこのように搾り出して 4つの柱に設定したということですね。ありがとうございました。あと、いかかでしょうか。 【(3)総合戦略個別事業集について】 もしよろしければ次の個別の事業、色々検討中であり作業されているその紹介もいただいたうえで、 皆さん方からのご意見をおうかがいしたいと思います。よろしいでしょうか。それでは、個別事業のご説明をお願いいたします。
事務局	恵庭市総合戦略個別事業素案についてのご説明をさせていただきます。 先ほどスケジュールの中で少し説明させていただきましたが、この中身は説明しないのですが、これまで市職員提案や 総合計画審議会という市民の方で構成される審議会においてご意見をいただいた事業をまとめているところです。 恵庭市総合戦略個別事業提案をご覧ください。はじめの一枚が事業一覧となっており、詳細は次のページ以降としています。 全部で65本ですね。中を見ると重複する事業、組み合わせたほうがより効果的になる事業も見受けられますし、 既存の国の補助制度にのり事業実施すべき事業もあります。今日はこの後皆様方から、この個別事業に対するご意見、 ご提言をいただきたいと考えています。例えば、この事業とこの事業を組み合わせたほうがより効果的だ、ですとか この事業にはそれぞれのお立場から積極的に参画していきたい、ですとかお示した事業案をより実効性のあるものに していただいても構いませんし、新規事業提案でも構いません。ただ、非常に申し訳ございませんが、お時間も限られた中 ですので、お1人様5分以内に発言をまとめていただきたくお願い申し上げます。 そのご意見、ご提言をもとに次回までに事務局で事業自体や事業内容の精査を行っていきたく考えています。 以上、中身については触れませんでした。そのようなことで本日はどうぞ宜しくお願いいたします。
座長	はい。今事務局から要望があって、1人5分ずつ事業についての提案ということでございますが、その要望に沿って これから順次皆さん方からご意見をいただけたらと思います。事前に既に目を通されているという前提で、これからの恵庭市における 地方創生に向けてのこういう取り組みが必要ではないかと、そういう視点でのご意見を期待されていると思います。 とはいっても大局の立場に立つてという部分もちろんあるんでしょうし、それぞれ皆さんこれまでのこの地域での活動のご経験、 それを踏まえて、こんなことはどうだろう、といったところを忌憚のないご意見をご発言いただければと思いますので、 宜しくお願いいたします。それではそれぞれ各委員からご意見をいただきたいと思います。

議事録内容(6/13)

B委員	<p> どういう会議の内容になるのかあまりよく見えていなかったの、詳しく事業を見てこなかったのですが、私は事業を行っており、まちづくりと言えまちづくりの仕事をしております。この中で、事業をざっと読んだのですが、恵庭市というまちを見たときに、何を感じるのかというと、恵庭市民というのは休日の日に恵庭から出て行くことが多くて、市外の人が恵庭に集まってくることがない。これは人口とは直接は結びつかないことですが、そういったことを感じています。人が集まる施設や場所があまりない、というところを感じています。それと話は別になりますが、恵庭には学生さんがいる。自分の気持ちをいつまでも若く保てる。ところが学生で地方から恵庭に出てきた学生も、3年生、4年生になると札幌に引っ越してしまうことないですか。そういう傾向ないですか。なぜなのか。若い人がここに居つかない。若い人が遊ぶ場所がない。若い人が興味を示す場所がない。それが結果的には人口ビジョンに載っていた20代前半の流出が多い、といったことを感じています。そこのところを、若い人が居残ってくれるような職種、労働環境、そうしたまちづくりが必要だと思います。それから住宅の話ですが、恵庭市で耐震化の補助金を出していますが、ほとんど使われていないと思うのですが、それを出来る業者が少ないという側面もあります。そうしたことから安全なまちという意味では恐い、と感じています。恵庭市は意外と道内の他の地域からそうです本州からの移住をされてくる人が多くて、その人たちがなぜ恵庭にしたのかということを知ると、恵庭市というのは札幌にも近い、空港にも近い。空港に近いということは非常に大切な要素です。むこうからこちらに来るということは、当然友人や親戚がむこうに圧倒的に多い。ということは冠婚葬祭で必ず飛行機を使う。地元に住んでいる人達より、もっともっと飛行機を使う機会が多い。そう考えると札幌よりもいいんだ、ということになります。札幌ですと、JRの駅から地下鉄やバスに乗ってだとか、家に帰るまで相当時間がかかるのです。恵庭だと快速で空港から12分、駅についてからタクシーや徒歩で数分、そんなにお金や時間のかかるまちの規模ではありませんから、そういった部分から見ても非常に暮らしやすいまちなのです。特別なものは札幌に買いに行けばいいし、日用品については大抵のものは恵庭で揃う。恵庭市内で全く不自由がない。そのメリットというのを、将来の人口増などを考える場合にもっともっとウリにしていかなければならないし、ただりタイヤ組ばかりではなくて、若い人が居残ってくれるようなまちづくり、せつかく文教大学さんやハイテク専門学校さんが生徒をどんどん増やしてってくれているのですから、そういった施策があればいいのかなと思います。ただ自分の中でそれをいかに具現化していけばいいのかというのは何とも言えませんが、少なくとも恵庭市にお金を落としてもらうという意味では、恵庭溪谷の観光をもう少しアピールするのですとか、学生が恵庭市内で遊べるような、勉学に努められる様なまちづくり、街並みがあるといいなと思います。 </p>
座長	<p> またお気づきの点があれば、後で補足いただければと思います。 </p>
C委員	<p> 私もですね、今日はお話を聞いてからと考えておりました、意見がたくさんあるというわけではないのですが、気づいたことということでお話をさせていただこうと思います。企業としてぱっと関連が強いと思うのは、4項目あげていただいている中の恵庭らしさを活かした魅力あるまちづくり。こういうところかなと思っております。例えば18番の地域資源を活かした地域産業の活性化。例えば一企業で言えばイベントを開催して、これに数万人の方々が集まっていたら、交流を深める、という場を作っている企業もあるわけなんです、こういったことも一企業だけでなく連携した形で、工業団地もそうなんです、深めていければ、また違うような見方ができるのかな、と。特にイベントをやるにあたって、学生の方にボランティアをお願いし、そういった若い人にも手伝ってもらいながら、交流を深めていけるようなまちづくりができたなら、と思います。メンバーを見回してみると、企業では様々なメンバーが働いているのですが、例えば地元の人もいる、私のように転勤で来る人間もいます。その中で家族持ちもいますし、単身独身もいる。企業はだいたいこんな感じで、働いているという状況ですが、例えばもっと噛み砕いていくと、家族持ちは、持ち家の方もいるし、賃貸の方もいる。それぞれが生活をしている中でですね、交流という部分でいくと世代的に色々な形で交流ができないのかな、とそれが一つのまちづくりの原動力になっていくところもあるんでないのかなという風に感じています。私もまだ来て2ヵ月ということで感想を申し上げますと、28年前にも恵庭にいたのですが、よりベッドタウン化が顕著になってきた、というイメージを持っています。札幌に会議でよく行くわけなんです、20数分で着いてしまうということもありますし、朝電車通っているのですが、反対側のホームの人だけを見ると、よりベッドタウン化が進んでいる。逆に言いますと、昼の人口が少なく夜の人口が多くなっているということなのかな、という風に思っています。まずまちの活性化という意味では、交流を促進して何かしら進めていかなければいけない、と漠然と思っています。 </p>

議事録内容(7/13)

A委員	<p>率直な感想ですが、個別事業のラインナップを見ますと、総合計画で出てきていることと国の意図が反映されているということもあるのですが、比較するとメリハリがあるなと思います。先ほど質問させていただいた意図と言いますのは、こういったまちづくりを議論する際に、若者を定着させる、ですとかあるいは子どもが成長しても地元に残ってという議論、どこでも聞のですが、じゃあ実際今の子ども、若者のライフコースとの関係はどうなのだろうか。高等教育機関は典型ですが、多くが専門に特化した形で教育をしている関係もありますので、そのまま継続的に卒業しても残ってということがなかなかイメージしづらいところがあると思います。ただいろいろなライフコースに対応するということを見越した形でここに並んでいる個々の事業はとても魅力的な事業なんです、繋げて考えていくということをこの後勉強して、少し提案していきたいと思います。例えば今思いついたのが一つあるのですが、高校や大学専門学校等を卒業したら、地元で就職するよ、それは民間企業でも公務でもどこでも就職するという約束をする学生達に対する奨学金制度なんていうのはどうだろう、ですとか、これは実際もう待機児童解消の事業で北海道の場合は、北海道に5年間保育園に就職する学生に対する給付型奨学金、貸与ではなく給付、月にすると4、5万円ぐらいですが、既に制度としてあります。そういった応援の仕方もあるのかなと思います。私達高等教育機関の場合もできるだけ地元から学生を迎える。たくさん増やすということは難しい。私のいる学科は定員100名なんです、恵庭市ということで限定すると4、5人在籍しているだけ。これを例えば10人に増やします、というようなこととかは可能かなと思います。そうしたときに今言ったような奨学金の制度を用意しておいて、私どもの学科からであれば、小学校の先生や特別支援の先生、保育園に勤めるだとかが考えられます。札幌で言えば似たようなところで、札幌国際大学さんなどがあるのですが、そうしたところと比較する時に、少しくしたインセンティブが働くのかなと。そうしたことを少しずつ積み重ねていくことが大事だと思います。退職者がいる家庭の話が出てきたのですが、世代別に持つてくる資産の関係でいくと、子ども世代からすると持ち家があるといった状況は、子ども家族から言えばとても魅力的な資産で、可能であれば恵庭に転職などで戻ってくるのであれば、そうしたところを引き継ぎたいといったニーズもあるのでは、と思います。例えばそうした時の移住で、既に家があって何も無いところを支援するのは大変ですけど、家族に対する就労ですとかの支援があっても面白いかなと思います。一方で恵庭の場合はまちづくりにしても、既存の資源が豊富、あるいは今ある資源を有効活用しているように感じます。どうしてこうしたことを申し上げるかと言いますと、子育て支援に関しましては現在サロンを作っていますけれど、札幌市ですと例えば各区に統一した規格で施設を作るというようなことを行っているのですが、恵庭市の場合ですと子どもの集う場所というのは、例えば島松地区ですと島松公民館を活用して事業を展開する、今ある資源を柔軟に活用する。黄金という新しい地区の場合ですと、新しく作ったコミュニティセンターの中で事業を展開する。そういう今ある資源をうまく使ってやってくるのが魅力的なところでもありますので、そうした点でいったときに具体的な意見を申し上げますと、資料の9ページです。学校・家庭・地域の連携推進事業ということで、ここではおそらく小学校区毎に一つ小学校を拠点としてといった提案がされていますが、この地域連携というのは福祉の観点も含めると小学校区毎にある憩いの家の指定管理者も事業を掘り起こして、掘り起こして事業をどんどん作るというのは指定管理のある種理念だと思うのですが、そういった形で資源が今どんどん膨らんできているので、そうしたところは是非活かすということで、地域にまちづくりの拠点施設があるというのは、一見良いように思えるのですが、まちづくりを活性化するという点では、あっちでもこっちでもやってくる、いろいろな世代がやっているということのほう、良いとは思いますが、お金のかけ方という点では、実はそちらのほうの方が有効利用と言えるんじゃないかと思います。そうしたところは地区の実態に応じた展開も考えるような施策を考えていただければと思います。あとはもう少し興味したうえで、話し合いができればと思います。</p>
座長	<p>ありがとうございました。</p>
D委員	<p>なかなか恵庭の就職率に貢献できていない、数字を見て資料を見てあらためて貢献できていないなあと感じています。現状を言うとはやはり専門学校、道内各地から来ますので、最終的な就職となるとそれぞれの地元に戻ると。職種によっては、道内では難しいので、本州での就職というのが現状です。恵庭の広大な敷地の中で今学校運営をやらせていただいていますので、そこでできる恵庭ならではの教育の展開ということは今やっています。ただ恵庭に貢献することになってくると、やはり恵庭に学生を就職させられる場所がなければいけないという風に思っていますけど、今考えているのは、若者が自分たちでこの恵庭の環境を利用して、起業できるのがいいんじゃないかと。道内の産業界を活性化させていける、リーダーシップがとれる人材育成というのを考えて、教育していこうと考えております。そうしたところいただいた資料の中に46ページと62ページで、若者が定住でき、かつ起業できるということ、学校としてできないか、一番考えているところです。今の若者には色々なアイデアがあるので、恵庭でできる教育を、地域・企業と連携して創っていききたいと思います。校舎が本州と比べて広く、学内実習室にまだまだ工夫の余地があり、新たな取り組みをするにはいいスペースがあるので、</p>

議事録内容(8/13)

D委員(続き)	<p>そこで学生を育成して、それを恵庭に貢献できるようにもっていきなと思っています。</p> <p>具体的には本州でリードしている形態もありますので、そこを活用して北海道に来て北海道の若者を教育して、そこで定着すると。学生の気質上、本州に出たがるというのが実はあんまりない。地元志向が非常に高い。</p> <p>それでも就職先がないので本州に行って、何年かしたら戻ってきたいという学生が多い。</p> <p>であれば、北海道をまず活性化させたいという若者づくり、かつ恵庭に貢献していけるような起業家づくりと若者の定着について、恵庭市と学校がコラボできれば面白い感じになるんじゃないかなと思います。</p>
座長	<p>ありがとうございました。なかなか北海道の学生は本州に出たがらない。でも現実には結構出て行ってしまふ。</p> <p>この部分を考えると色んな戦略の打ちようがあるのかなと。</p>
D委員	<p>最終的には、就職指導を我々もしなければならぬわけで、本州に就職先があれば本州に向かってしまふ。</p> <p>北海道に残れるような教育づくりと起業支援ができれば、まず道内に残ることができるのかな、と。</p>
座長	<p>学生も必ずしも大企業思考だけでなく、委員おっしゃたような自分でベンチャーやりたいとかNPOでもいいところあれば、逆にそういう受け皿をしっかりと作ることは実際地方創生の大事なテーマで、そんな議論に結びつけていくことができればいいですね。</p>
E委員	<p>私もこの総合戦略の部分、大変参考にさせていただきました。私は2ページに尽きるんじゃないかなと思います。</p> <p>課題が1、2、3とあるんですが、移住してもらうためには恵庭を知ってもらうことが大事で、いきなり恵庭はいいまちだから家を建ててくださいと言っても、これはちょっと厳しいのかなと。空き家になっている住宅が今どれくらいあるのかという把握と、それを管理して、リフォームなりしてまず1回恵庭に借家として住んでもらうということをまず考えていけばいいのではと思います。</p> <p>一方高齢者の方は一軒家を維持するのが大変だというわけで、サービス付き高齢者向け住宅は恵庭にも2棟完成していますが、まずまず入居も進んでいると。現在3棟目も建設中であり、ニーズはまだあるのかなと。高齢者はそういったところに移っていただいて、住んでいたお家を貸すなり売すなりする、というところにヒントがあるのかなと思います。それで気に入ってもらったら、是非恵庭に家を建ててもらっていただくと。それが移住定住の促進事業にも繋がるんじゃないかなという風に思います。</p> <p>その中で色んなことが関わってくるんですが、私も恵庭に住民票を移して恵庭の住民になりました。住んでたら恵庭は何の不便もないです。不便はないのですが、うちの職員は転勤が決まると恵庭に住みたがらない。最近異動になってくる人は、我々は恵庭市で商売しているんだから、問題なければ恵庭に住んで働いてみてください。という風に最近の異動者は恵庭に住んでもらっています。聞くと、やはりいいまちですねと教えてください。なのでまず1回住んでもらうということが必要なのかな、と思います。是非そこに着目していただければと思います。</p> <p>それとエコバスなんですけど、私恵庭に来て何度かエコバスに乗ろうとしたんですけど、どうもこのバスがどこに行くのかというのがわからない。帯広の十勝バスが赤字からここ何年も黒字計上したのがよく報道されていますけれど、バスの乗り方がわからない人がほとんどだったという現実もありますので、主要所に止まるバス、例えば市役所に、ショッピングセンターに、道と川の駅に、温泉に、そういったバスをわかりやく走らせたほうが、もしかしたら地元の人にとっては、特に高齢者にとっては、いいのかもしれない。</p> <p>それと各工場のバスですが、各企業が個別に走らせていると思うのですが、私達が外を回っていると、パートの確保が難しい、というお話を最近よく聞きます。各自企業努力としてバスを確保して、コストをかけて運転手を雇ってというよりかは、もしかしたらエコバスのようなものを利用して走らせたら、パートの確保もしかしたらできるんじゃないかなと思います。</p> <p>あと障がい者就労施設支援事業が個別事業としてあったんですが、これ確かごみの袋の折る作業はしているけれども、作る場所はどこか違うところで作っていると聞いています。私も2、3お客さんから言われてまして、補助金が活用できるのであれば、恵庭市でもできる。だからいい補助金あれば教えてね、というお話をいただいておりますので、障がい者の雇用を考えたら、まだまだそういった伸びしろがあるんじゃないかなと思います。これ実際お客さんから言われておりますので、それ自体持ってこれるかどうかわからないんですけど、それも一つ考えてみたらいいのではと思います。</p> <p>あとこれどうかわからないですが、自衛隊の退職者って結構若い時期に退職するのですが、意外に就職先がなくですね、地元以外のところに就職しているケースが多いように聞いてますので、若者と高齢者の雪かきあたりに、そういった雇用する場面がもしかしたらあるのかなと思います。</p>

議事録内容(9/13)

座長	ありがとうございました。
F委員	<p>個別の事業に対してということではないのですが、最近、大学さんですか、企業さんとお話させていただき中で、いくつかこういうことなんだと思うところがありましたので、御紹介させていただきます。</p> <p>まず企業さんのほうにおいては、立地したはいいけれどもそこでパートさんを集めるのに非常に苦労していらっしゃるというお話が多いです。そしてパートさんだけではなく、新卒採用をこれから進めていきたいんだけど、学生さんがなかなか地元企業に目が行ってないんじゃないか、というお話もありました。</p> <p>これも立地企業さんのフォローは、もちろん恵庭市さんでも経済部セクションでされているかと思いますが、そのきめ細やかなフォローを通じて、企業さんと地元の学生さん、もしくは恵庭市内の大学だけじゃなくていいので、近隣の大学に通っておられる学生さん、そういったところを出会わせてあげる、そういったことももしかしたら出来るのではと考えていたところですが、それから本州の企業さんの話なんですけど、北海道の学生はなかなか地元を離れたがらない。</p> <p>もともと地元を離れたがらないものだけど、北海道の場合は特に離れたがらない。そういう傾向が強い、印象を持っている。それで採用が本社採用となるとどうしても道外になってしまって、最初そちらのほうに行き、2、3年修行をしてもらってから北海道に帰る道があるよと、そういう風に言った時も、2、3年でも地元から離れたくない、というのが本人はもしかしたらいいのかもしれないけど、意外に親御さんがそういったところ抵抗を示されるという傾向が特に北海道の場合は強いという風に伺っています。そうしたところも若者の地元定着を考えるうえで、非常に大事な視点かなと思っております。</p> <p>それからもう一点。学生さんの地元定着の他にやはり何と言ってもですね、人口減少問題であれば合計特殊出生率のほうを何とかしていかないといけない、というのが大きいと思います。ただこのところは直接行政がさわりにくい部分ではあるのですが、恵庭市さんの中で希望する子ども数がどのぐらいかというデータを押さえていらっしゃるかどうかかわからないのですが、それが果たしてどれぐらいなのか。国でも道でもそうなのですが、望みどおりに子どもを産んで育てられる、そういうところを目指していくためのビジョンを目指しての総合戦略ということになるので、そういったところをきっちり押さえつつ、希望する子どもを産んで育てていける環境を作るにはどうしたらいいかというような視点から施策を打っていく必要があるのかなと思っております。恵庭市さんは今年度の事業を見ましても、子育て施策に対しては非常に厚く施策を打っておられるという印象があるんですが、それでもなおかつやっとなかなかきかさないのが子育て支援だけではない部分だと思います。子育て世代から選ばれるっていう視点が非常に大事で、どこから移住してくるだけではなくて、子育て世代が住まいやすいまちづくり。それをすることによって、さらに今お子さんが一人のところから二人目、三人目というところになっていければいいな、とそういったところをどういう風に考えていくか。子育て世代に選ばれるためには、子育て施策もちろんなんですけど、そもそもポジティブにそういったことを考えられるような周りの環境も非常に大事になってくる、</p> <p>と思いますので、機運が高まっていくことも重要なポイントになると思います。ポジティブキャンペーンというのを北海道でもやろうと考えていまして、そういったところの視点をですね、是非。恵庭市さんはそういったところ力をいれておられると思いつつ、さらに力をいれていかれては如何かなと思います。</p> <p>それから移住施策に関しましても、恵庭市さん今まで色々取り組んでおられて、例えば住み替えの関係ですとか、首都圏のほうに行かれて移住交流ガーデンで移住相談の取り組みもされて非常に盛況だったと伺っておりますので、恵庭市に今まで縁のなかった人も呼んでくることももちろん大事なんですけれど、もう一つ恵庭に何らかの縁があった方、そういった方にピンポイントでアクションを起こすということをやってもいいのかなと思っていまして、恵庭に住んだことのある方、もしくは親戚がおられる方、友人が引っ越した方、恵庭市内の学校に通ったことがある方、そういった方に対してピンポイントの発信というのもやっていっていいのかなと思います。個別の施策ということではないんですけど、少し印象を申し上げました。</p>
座長	ありがとうございます。
G委員	<p>私も道内いろいろなまちを転勤で歩いているんですけど、恵庭のまちの特徴としてですね、子どもさんがすごく多いのと、小学生が、通勤時間歩いてもたくさん子どもさんが歩いている。これはやっぱりまちの力というか、勢いだなと思います。</p> <p>ただ、放っておくとその子ども達も大きくなって出て行っていなくなってしまう。それをどうやって循環させていくかという色んな施策をお考えなんだなと思って見ていたんですが、色々参考になる事業がたくさんあって何か組み合わせできれば、と思って見ていたんですが、例えば番号でいくと2番のワンストップ、8番のコミュニティ関連事業、15番市営住宅入居者サービス、21番耐震改修促進事業、60番の子育て世代移住、61番移住定住、63番64番の移住。このあたり色んな関連したらいいんじゃないかと思う項目がたくさんありました。この辺うまく組み合わせると、さっきE委員からもお話があったのですが、私なんかは恥ずかしい話転勤してくるまで、一度も恵庭の駅で降りたこともなかったのですが、ここで2年ぐらいいるとやっぱりいいまちだなと思います。自分自身はもう子育てが終わりかけていますけれど、</p>

議事録内容(10/13)

G委員(続き)	<p>子育てになる前ぐらいだったら、庭付きの一戸建てに住めて、そこで子どもを育てられるな、という地域だと、恵庭に来て初めてわかった。ただ、いきなりここでボンと家を買うリスクをとって来られる方はそうそういないと思いますので、札幌だと同じ金額でアパートにしか入れないけれども、同じ賃料を払うと例えば恵庭だと一戸建ての庭付きの住宅を借りれますよ、と。それで住んで周りにお友達も出来て、じゃあ自分の家建てようかとか中古住宅を買おうかとか、建ててもらってぐるぐる回していけば、子どもの成長に合わせてどんどん変わっていくのかなと思います。その方々が、子育ても終わって大きな住宅に夫婦二人だけで空き部屋ばかりという方もいらっしゃるので、そういう方はマンションのような集合住宅のようなところに移ってという形で、どんどん新しい方も入りながら回していく方策もとれるのかなと思います。それを市の事業としてどうやってできるのか、と考えたのですが、なかなか難しいのかもしれないのですが、例えば中古の住宅を買うような会社、特定目的会社を作って、そこで住宅を買ってリフォームして、それを賃貸に回すと。ただそうなると採算が非常に難しくなると思いますので、賃料などは市役所さんのほうで保証して、市営住宅の一環のような格好でやって、入居者の方々は将来的に自分の家を持つようなことができないかな、ということを考えて読んでいました。それぞれの事業すごく面白いので、結びつければ結構面白いことできるんじゃないかなと思います。</p>
座長	<p>ありがとうございました。</p>
H委員	<p>まちの基本的なことなので、皆さん触れずにいるのですが、恵庭は防災の面で非常に優れています。総合戦略で「安全安心に住み続けたいまち」として、防災のことが書いてありますが、ここにある施策には、地域防災力の向上で「放置自転車を何とかしましょう」といったことなどが並んでいます。防災対策がこうしたレベルで収まっているのは、恵庭が防災面の基本的なところで非常に優れていることを示していると思うのです。北海道の人口の大半は、太平洋側の苫小牧から恵庭を通して札幌から日本海側の石狩までの、いわゆる石狩低地帯に集中しています。この中で海に面した苫小牧や石狩は津波の心配があり、東日本大震災以降は特に、防災対策というと津波災害対策が必要とされています。また、昨年の御嶽山、最近の口之永良部島のような火山噴火も非常に心配なことになっています。海や山に近いまちは、火砕流などの危険性を考えて噴火時の災害を想定したハザードマップを作り、避難経路を考えたり、津波避難ビルを考えたりしなければなりません。これが恵庭だと、確かに遠くに樽前山や恵庭岳は見えますが、市街地まで火砕流や津波が及ぶ心配はしなくても良い。だから、地域防災力の向上で放置自転車対策などが並ぶわけです。つまり、津波や火山災害といった大規模自然災害のリスクが小さく、これらの対策が深刻なレベルではない、基本的に防災面で非常に優れており、基本的な安全レベルが高いまちということです。これは、もっとうろろな人に知ってもらった方がいいのではないかと思います。その基本的に安全レベルの高い恵庭で総合戦略のひとつ・まち・しごとが成り立っていくことを強調できればいいのではないかと思います。先ほどの人口構成の推移の説明で、高齢化が著しかったのですが、安全レベルが高いまちなのですから、高齢者が安全に住めるまちでもあるでしょう。それから子育て支援というのも非常に大きなテーマですが、小さな子ども達が安心して暮らせるまちということにも結びつけられると思います。安全・安心なまちで人口減少に負けないまち、子育てしたくなるまちというのがうまくつながって、その中でコンパクトシティというのが、これから高齢化社会、あるいは小さな子供を育てる上で必要ではないかと思います。残念ながら市の総合戦略個別事業でコンパクトシティ推進の項目はあるが中身がありません。ただ、64ページの空き家活用というところに事業目的にコンパクトシティ推進が出てきています。空き家など既存のもの、施設を活用して、高齢者と子育て世代が近所に住み、近所の人たちが集まれるような場所で交流できるのではないかと思います。そして、個別の事業を一つずつ並べて具体化し、実現していくことも大切ですが、こうしたものを、つなげてまとめていく役割を、誰かが果たしていくことが必要なのではないかなと思いました。</p>
座長	<p>ありがとうございます。</p>

議事録内容(11/13)

I委員	<p>恵庭創生ということでかなり範囲の広い部分で、なぜ私がここにいるのか自問自答してたのが、働くものの立場で恵庭はどうなんだろう、ということの委員ではないだろうかと思いました。そこで考えていたのが、先ほど何人かの委員の方がおっしゃっていましたが、恵庭市の企業体というのは、千歳と恵庭は空港も近い、港も近い、しかも支笏湖という水源地もある、食品業界でもどんな業態でも誘致しやすいいい場所だと思います。大都市札幌もありますし、そういう部分では非常にいい場所なんですけれども、働くものの立場から見て、先ほど別の委員もおっしゃいましたが、実際パートさんが足りないのです。恵庭市の企業のパートの比率は高く、恵庭市だけでは賄いきれない。</p> <p>するとどうするかと言いますと、各企業体がバスを出す。迎えに行く。先ほど別の委員もおっしゃいましたが、エコバスという手もあるのかもしれませんが、実際52ページに書かれていますとおり勤務時間は様々で、私の会社では年中無休、年末になると稼働率もあがり、人員も必要になってくる。そして24時間体制。すると恵庭に住んでいる方々が、パート人口は少ない、時間帯も合わない。そして働きたくても働けない。そうした時にどうするかと言いますと、派遣会社を利用する。ということになりますと、賃金の問題も絡まってきます。企業側からも保障の問題も出てくる。色んな部分でなかなか、パートさんの集まらないまじで企業を誘致するというのもまた大変難しい。恵庭は先ほども申しましたように立地条件は非常にいい。そうした部分から雇用の問題をどう解決するかというのは課題です。あと、賃金の問題です。仕事の内容によって大きく差が出る。汚い仕事よりは、きれいな仕事。そうしたところには若い子がいく。そちらは人気がある。食品関係の水を使う仕事は難しくなる。といった問題もあります。パートさんの確保に、近隣の北広島、札幌方面まで募集しないと人手が足りない現実。</p> <p>そういった状況の中で、恵庭市は行政を含めてどういった対処をしていけばいいのか。</p> <p>あと、個人的に思ったこととしましては、これだけ広い範囲で考えていく中で、私も高校生から恵庭に住んで高齢者となり、子ども達もいなくなり夫婦二人しかいませんが、一軒家を持っていても意味がないなど。どうすればいいかなという実感も湧いています。そうしたところで高齢者の住宅に関する窓口ですとか、なかなかいいこと書いてあるなど見てまして、そうしたものが出来上がれば、高齢の人たちが抱えている問題ですので、恵庭市に魅力を感じるのはいやほり暮らしやすい部分だと思いますので、防災も含めた過ごしやすいまちづくりをしていただければと思います。また、労働者という立場から、色んな人の意見を吸い上げて、発言できればと思いますので、宜しくお願いいたします。</p>
座長	<p>ありがとうございました。</p> <p>人口減少だけでなく、人口減少超高齢化社会問題、それに向き合う施策も大切かなと思います。</p>
J委員	<p>人口問題に関わって、我々が携わっていく行政の中で雇用という部分は重要な位置を占めているのかなと思っています。</p> <p>昨今の求人状況を見ますと、求人倍率も上昇している中で、人手不足の職種ですとか業種、そういったマッチングについて関わりが重要になってくるという風に思っています。そこで一般求職者の方々もそうですし、学校を卒業した生徒さんもそうですし、どうしても本人の希望、あるいは企業の希望のすり合わせ、その辺が非常に難しいと思っております。</p> <p>今回恵庭市に事業を見ますと、ハローワークが関わっていけるマッチングに関わって、提案されているものがいくつかありまして、その部分について情報を共有していくですとか、我々が持っている情報をお知らせしながらマッチングに結び付けていければいいのかなという部分があります。個別の部分で言いますと、52ページの雇用促進・拡大事業【雇用数増】といった事業でございますが、こうした先ほどパート労働者の人手不足ですとか、私どもの関わりとして求人者の情報をお寄せいただいで、一方私どもは求人開拓をしていってマッチングをしていくといったことなどができるのかな、と。それから54ページの障がい者就労施設支援事業、こういった中でも障がい者の雇用を拡大する中でも関わっていけるのかな、と。</p> <p>今の障がい者の窓口に来られる求職者の状況としましては、健康保険に加入できるというような条件、そういったことを希望されている求職者の方が多くなっています。それから55ページの働くヤンママ応援事業、これもハローワークのほうでは窓口としましてはマザーズハローワーク、マザーズコーナーというコーナーを設置しておりますので、希望の求職者の方を誘導していただくなどして、こちらのコーナーでは一般的な就職に向けたセミナーなどを実施しておりますので、利用していただければと思います。56ページの就職支援事業【先行型実施】ですが、これは既に就職支援事業ということで恵庭市さんで実施されているということになるかと思っておりますけれど、当所の職員が選考に携わっていくといった関わりが出てくるのかなと思います。他にも雇用に関する部分がいくつかあるかと思いますが、活用していただけるような関わりを持っていきたいという風に思っております。</p>
座長	<p>どうもありがとうございました。</p> <p>今日は皆さんから一通りご意見をいただきました。これだけは付け加えたいというような追加でのご発言ございましたら是非宜しくお願いいたします。</p>

議事録内容(12/13)

B委員	<p>最初だったのであまり考える時間がなかったものですから。</p> <p>この番号に照らし合わせると64番に関係してくるのかなと思うのですが、日本人は農耕民族ですから、一箇所に定住する、昔からの血があるわけです。アメリカ、カナダというのは狩猟民族なので、あちこち移転していく、そういった先祖代々のDNAがあるんじゃないかなと思っていて、ところが今国土交通省が空き家対策として住み替えを推奨しています。その住み替えは、アメリカ、カナダのように若いうちは小さい家、子どもが来ると大きな家に住み替えて、さらに子ども達が出て行くとまた小さな家に住み替えていくという、基本的なアメリカ、カナダ方式の住まい方というのがあると思います。それが浸透していくと、空き家対策にもなるのかな、と思っておりますが、日本という国は住教育というものがない。家っていうのは、どういうものなのか。家はこういう風にあって、どういう風に手直していかなければならないか、小学生の頃からアメリカ、カナダ、ヨーロッパでは必ず行われています。日本ではそういった学問が全くありませんので、古いものは壊して、といった考え方があります。</p> <p>64番に一つ付け加えるとすれば、空き家というものをリフォームして、色んな使い方があって、それを直すだけでは全く意味がないと思います。直すのであれば、25番、26番のように省エネ、省CO2、地球温暖化防止に絡めていかないと、お金の無駄遣いになるわけです。日本の住宅がなぜ長持ちしないのか、25年から30年で解体してしまってきたというのは、過去の技術でやってしまったからに他ならなくて、今の家っていうのは高気密、高断熱で100年ぐらいは平気で持つ住宅です。そういった断熱気密耐震改修というのを、今の住宅業界ではごく一部の会社がやっています。</p> <p>そうして古い家を再生させる。そういう風にしていかなければならないんだらうなと思います。</p> <p>単純に言えば省エネ改修という意味合いで、空き家対策にも組み込んでほしいなと思いますし、25番26番のスマートハウス関係、地球温暖化対策、これも絡めていただければと思います。</p> <p>それともう一つ。恵庭市にはサッポロビールさんのような大きな会社というのが少ない。若い人達はやはり大きな会社を希望しています。それを考えると今の学生さんは恵庭に残らない。極端な話、ゆくゆくは大きな会社を誘致していただければいいのですが、目先だけを考えれば学生さんは大きな会社に就職してもらって、公務員になってもらって、でいいと思います。</p> <p>ただ、住まいは恵庭でいいんじゃないの、ということを思います。そうなってくれば、人口減少にも少しは、歯止めがかかるでしょうし、昼間の人口は少ないかもしれませんが、若干でも力になってくれる。</p> <p>家を建てる際に、土地から探すという方たちがいます。恵庭、千歳、北広島、江別、どこでもいいよという方が結構いるのですが、そういうどこでもいいよという方の中で恵庭に家を建てる人は少ない。なぜか。意外と多い答えは、駅が寂しすぎる、というところがあります。自分自身も飲みに行くとなると北広島まで行ってしまふ。勤務先は札幌で帰ってくるのは恵庭。そうなった時に駅で一杯引掛けるところが全くなかった。意外と大きなファクターなんじゃないかと思えます。この会で話すことではないかもしれませんが、駅を絡めた部分がなかったのかなと思います。</p> <p>そして、戻りますが25番、26番で言われています地球温暖化対策の住宅づくり、団地づくり、スマートハウスの団地づくり、恵庭市の夏の晴天率はあまり高くありませんので、太陽光発電もざっばらんに言えば今の技術では元はとれないのかなと思いますので、かなり厳しい話なんじゃないかなと思います。であれば、逆にエネルギーを作るとか貯めるというよりは、エネルギーのかからない住宅づくり、使わない団地づくりをうまくマスメディアを利用してやっていければいいかなと思います。</p>
座長	<p>はい、ありがとうございます。あと追加でのご発言などございますでしょうか。よろしいですか。</p> <p>今日は第1回ということで、各委員のほうから幅広いご意見をいただきました。それを次の具体的な検討に繋げていくということで、あえて事務局のほうから個別に回答を求めるといふ流れでは今日はもっていくつもりはございません。</p> <p>折角ですので私のほうからも少し全体の皆さん方のご意見をお聞きしたうえ、他の地域の取り組みなども踏まえながら、三点ほどお話をさせていただきます。</p> <p>地方創生、地域で色んな議論が提起されてきているのですが、今日の皆様方のご意見、事務局でご用意いただいた事業、あらためて考えれば恵庭の地域というのは色んな意味でまだまだ恵まれている、地方の中では恵まれている状況。</p> <p>ただ、そこに甘えるのではなくて、恵まれているところをしっかりと意識して理解してその良さをどう繋げていくのか、そういう向き合い方が大事なんじゃないかなと思います。例えば今、地方の人口問題を考えるうえで、若者の定着というのは非常に大事なテーマなんですけど、最高の若者の地域に受け止める素地というのは大学など高等教育機関なんですね。</p> <p>でもそれがないところがほとんどです。恵庭は大学があり、専門学校が3つもある。そういった若者が集う素地をこの地域は持っている、それを如何に生かしていくか。大学の持っている素地というのは、生かし方に随分と差があって、最悪の場合は他に住んでいてただ授業のために通うだけという。そこにおける若者の地域の関わり方というのは、ほとんどないわけです。でも大学のキャンパスの中には、集う空間があり、クラブ活動などもあったり、場合によってはアルバイトであったり、そこに住んだり。この地域にある高等教育機関というのがどこまで若者と深く関わっているか。その関わり方によって、そこで消費も生まれ、地域への愛着も生まれ、将来的にはそこで住み、そこで働くという。そういう関係づくりというのがやはり恵庭のこれからの人口減少に向き合っていく中での、大切なところになるんじゃないかなと、</p>

議事録内容(13/13)

座長(続き)	<p>あらためて感じました。といってもそれに関わる政策というのは非常に大事な政策なんで、是非進めてほしいなと思います。</p> <p>それからもう一つはですね、これは基本的なところなんです、全国で今1,700を超えるところが同じように総合戦略を作っているんです。私も色んなところへ行って、これは限界だなと思ったのは、市町村という単位で最終的にそこに人が定着する、所得の機会を支える産業、雇用。その課題は広域的なものなんですよ。だからここは千歳なり北広島、周辺とどう連携をしながら、この戦略に取り組んでいかれるのかわからないですが、ある地域では、外から移住してくるための政策を一生懸命やっているのですが、でも考えてみたら広域的な地域内でのお互いのパイの奪い合いのような。</p> <p>それは地方創生が求めるところでは全くない。市町村の単位だとしてそこにはやっぱり人口増加になるとしても、戦略的に見ますと広域の中でのお互いに小さな地域での奪い合いではムダなエネルギーで、政策としてはむなしなものになる。</p> <p>そういう広域的な調整をどう進めていくのか。今日は北海道庁の田辺さんおられますけれど、やはり中間行政体の北海道としての役割で、独自の総合戦略と同時に各市町村の取り組みをある意味で広域的な課題を調整していくとか。</p> <p>例えば道央圏であれば、札幌周辺都市はこういう方向で戦略的に連携してやっていく、とかそういう見せ方が中央に地方の総合戦略を持っていく時のいい意味でのアピール、迫力、メッセージ、そういうものに繋がっていくのではないかと思います。</p> <p>実は国の側からの問題提起はないのですが、地域の側からすればかなり大きな問題じゃないかなと思います。</p> <p>最後、3点目。今日の個別の事業の提案というものをベースにこれからの施策の取り組みということでお話があったのですが、もともと地方創生のこの取り組みって何で出てきたのか。そこに恵庭という地域はどう向き合っていけばいいのか。</p> <p>大局的な戦略的な視点と言いますか、それに沿っての事業というその部分を是非持って欲しい。これはどういうことかと言いますと、今回の人口減少問題の最大の要因はただ単に出生率が下がるということではなくて、昨年の5月に日本創生会議が出したメッセージで一番の大きな問題は、大都市部に地方から人口が移動していくと。そうすると人口は出生率が極めて低い大都市部に集中することによって、日本の人口、出生率はさらに減っていくと。だからこの社会移動の問題をいかに食い止めるか。地方対大都市圏の問題。それに対して恵庭の地方創生の政策の中で地方の立場として何ができるかと。そういう視点が大事だと思います。そうすると地域の中、北海道の中からの奪い合いというよりは、焦点は大都市圏です。大都市圏からいかに北海道に、その北海道の中で恵庭がどういう役割を担うか、あるいは担えるか。そういう大局的な戦略的視点の中で政策を積み上げていくと。この部分があるかないかというのは、かなり私は大きいところだという風に思います。そういう観点から言うと、先ほどH委員やI委員など皆さんおっしゃいましたけれども、これほど安全な地域はないと思います。大都市部にあれだけの首都機能が集中していることの脆弱性、その問題というのが今地方創生で一番問われているわけです。だから大臣自らが政府機関の移転を地方に要請するという、これは地方にとってはすごいことです。これをどう受け止めていくのか。</p> <p>そうなってくると例えばこの間のデータを見ましても、この間震度5強が首都圏で起きました、これから30年間に震度6弱の強震、これが首都圏を襲う確率は60%を超えています。大阪圏だと70%。北海道どうでしょうか。この地域0.6%ですね。低いところだと0.2%とか。やっぱり地震のない資源をいかに生かすか、そういう発想を。なんでこれを申し上げるかと言いますと、それを裏付ける動きがもうこの周辺にいっぱいあるんですよ。今、北海道の企業立地の動向を見ると完全にリーマンショック前に戻ってます。その動きの一番の要因はリスク分散です。首都圏からの脱却。その先として札幌であったり、北広島であったり恵庭であったり。この地域における日本の国づくりという面での非常に安全安心な地域としての選択があるわけで、そういうものに対してこの地域としてどう受け止めるか。しかも恵庭だとそれに対してそういう人たちが住む環境の素晴らしさもある。この間北海道に本社を移転した会社の社長さん達とお話しましたが、北海道に来る、本社移すっていうのはすごい決断で、でもやっぱり来てみて、どうですかという話をしたら、いやいやこんなに住みやすいところないし、特に冬の問題も素晴らしい除雪体制で心配なかった。安全安心に加えてその地域に住んでもらって満足感を持って、いただけるというやっぱり地域の魅力というものを如何に訴えていくか。私はやっぱりこの地方創生の議論の中での軸として、大事な部分じゃないかなと思います。この3点目というのはいわゆる戦略的な視点を持った中で、実は今あった色んな事業をこういう形で位置付けていく。その体系的な戦略の見せ方というのが大事じゃないかなということで。今回は第1回目でありますので、少しそんな観点で、これからの作業、あるいは検討していただければと思います。さて、与えられたお時間はそろそろ近づいてまいりましたが、後今日この第1回で議論していただきたいこと事務局のほうございませんか。</p> <p>よろしいですか。では、私のほうで進行すべき議事は以上でございますので、次のスケジュールについては如何ですか。</p>
事務局	<p>先ほどお渡ししたスケジュールで6月23日次回とありましたが取りやめます。今日の意見をいただいてもう少し各部と調整して、組み合わせたい方がいいなど色んなご意見ありましたので、それを使ってまた皆様にお示したいと思います。</p>
座長	<p>もう時間ありませんのでたき台に沿って議論できるような形で、その準備をみて、あらためて日程のご相談いただけますか。</p> <p>それではこれで本日第1回の地方創生懇談会は終了します。どうもご協力ありがとうございました。</p>